

西岩手山の噴気活動の変化*

Change of fumarolic activity in the West Iwate volcano

岩手県総合防災室**

General Disaster Prevention Office, Iwate Prefecture

岩手山は1998年のマグマ貫入後¹⁾、地表への火山ガスの放散とこれに引続く水蒸気の到達により、1999年3月頃から噴気活動が活発化しはじめ、植生の枯死が拡大した²⁾。そこで1999年5月～2004年9月(現在)の日中、黒倉山山頂から北約7km地点(松尾村柏台3丁目)から、土井小枝子・宣夫が噴気地点と噴気の強さ等を目視により観測した。観測は、1999年5月から2001年6月は連続で行い、その後は噴気が強い場合を除き30分に1回からさらに60分に1回の頻度で実施した。

第1図に3地点(黒倉山山頂、黒姥北1号、姥倉山北斜面)の噴気(群)の強さの変化を日中の最大値で示す。黒姥北1号噴気は、姥倉山北斜面東部に最初に出現したもっとも強い噴気である。噴気は気温が低い冬季に強く見えやすいのでこれを考慮すると、3地点の噴気は1999年から急激に強くなって2000年にピークに達した後、2001年後半に黒姥北1号噴気が²⁾、2002年に姥倉山北斜面の噴気が、そして2003年には黒倉山山頂噴気がそれぞれ減衰し始めた。黒姥北1号噴気と姥倉山北斜面の噴気は本年(2004年)5月頃から急激に減衰した。これは本年の黒倉山～姥倉山間の植生の急激な回復に対応していると考えられる。

参 考 文 献

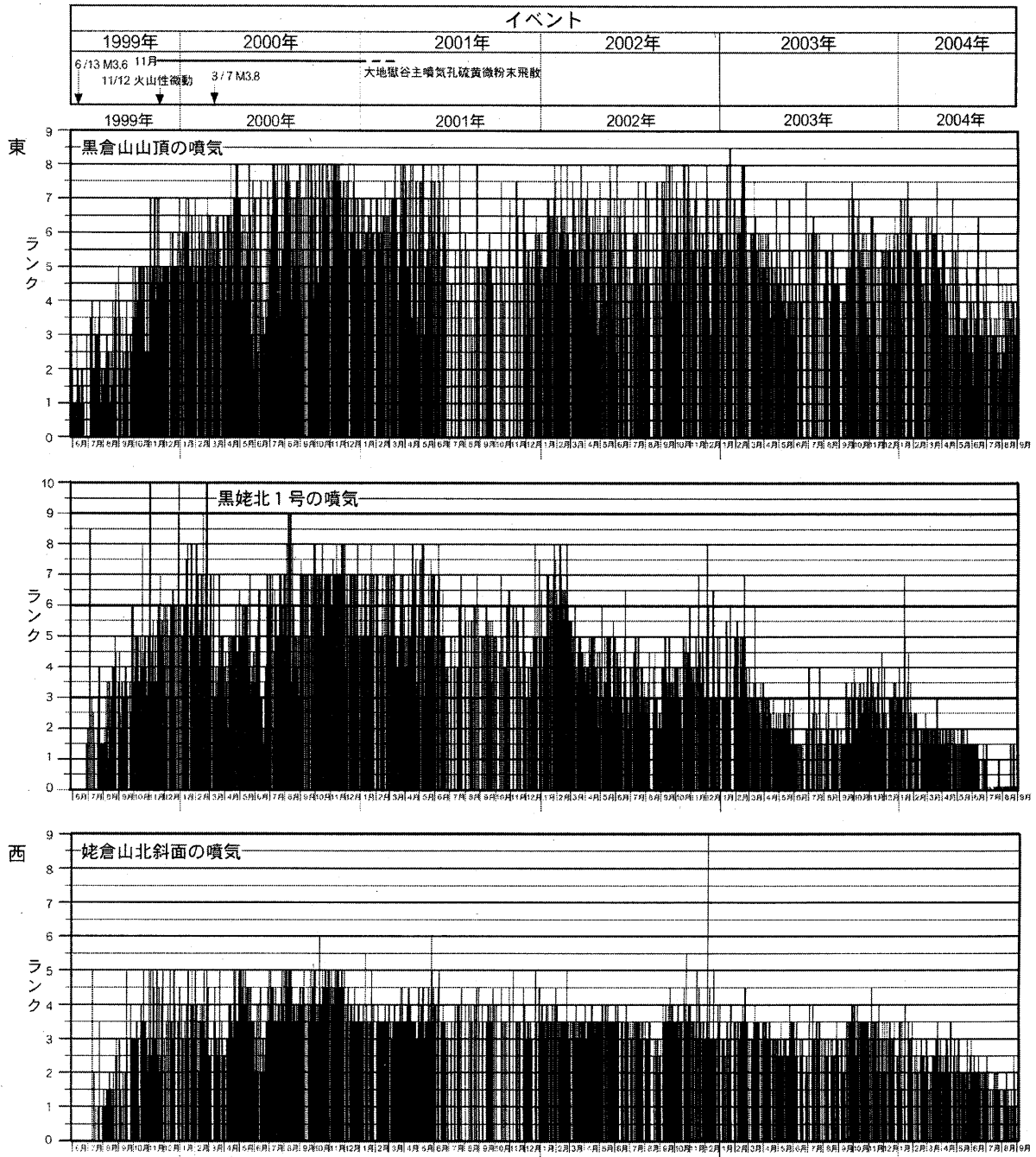
- 1) 佐藤峰司・浜口博之(2001):地殻変動観測から推定された1998～1999年の岩手山のマグマ貫入プロセス,日本火山学会講演予稿集, no. 2, 91.
- 2) 土井宣夫・斎藤徳美・土井小枝子・野田 賢・越谷 信・沼宮内 忠・小原千里(2002):岩手火山の1999年からの噴気活動と東西性開口き裂群,月刊地球,号外 no. 39, 38-44.

* Received 13 September, 2004

** 土井宣夫
Nobuo Doi

西岩手山の噴気活動記録 (その38)

黒倉山噴気ダイアグラム [1999年5月29日～2004年9月5日]



第1図 西岩手山3地点の噴気の強さ。

黒姥北1号噴気はランク0 (図ではランク0.1と表示) の日が増加している。

Fig.1 Change of the fumarolic activity in the west Iwate volcano.

The activity in rank 0, which is shown in rank 0.1 in the figure, increased recently at the fumarole named Kurouba-kita 1 go.